

# 令和元年度 終了評価書

研究機関 : 富士通(株)、北陸先端科学技術大学院大学、SMK(株)、(株)ワイズ・システム、KDDI(株)、日本電気(株)

研究開発課題 : IoT 共通基盤技術の確立・実証(PRISM 追加課題)

研究開発期間 : 平成 30 年度

代表研究責任者 : 松倉 隆一

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価 4

■ 総合評価点 : 21 点

## (総論)

農業分野での連携が進み、開発目標を着実に達成している。また、技術の視点からも、しっかりと研究開発を進めている。農業分野のスマート化に関する事業は思った以上に厳しいことを踏まえ、事業に落とし込むときのハードルに関しても今後深くしっかりと検討いただきたい。

## (コメント)

- 農業との連携がうまく進んだ。
- 事業化についてはさらなる努力が必要。
- 開発目標は着実に達成している。また、技術の視点からも、しっかりと研究開発を進めている。農業分野のスマート化に関する事業は思った以上に厳しいことを踏まえ、事業に落とし込むときのハードルに関しても、今後、深くしっかりと検討いただきたい。
- 連携をするという意味でよかった。

## (1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価 4

### (総論)

WoT、HTIP などの標準化技術を農業分野に適用し、普及の道筋をつける内容となった。また、省庁間連携は、実フィールドで使用可能なデバイス開発や、通信の活用法等の意見交換に、有効に働いた。

### (コメント)

- 省庁間連携により実フィールドで使用可能なデバイス開発や通信の有効活用法などの意見交換に有効であった。
- 農業分野に WoT、HTIP など進めてきた。標準化技術を適用し、普及の道筋をつけた。
- 産学官連携実証という点で目標は達成されている。しかし目標を上回るレベルのものはない。

## (2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価 4

### (総論)

農研機構コンソーシアムとの連携、商用フィールドでの実証実験への展開など、省庁間連携を行うことで、他の課題と比べ、より大きな費用対効果を得ることができた。

### (コメント)

- 省庁間連携を行うことでより大きな費用対効果を得ることができた。
- 農研機構コンソーシアムとの連携、商用フィールドでの実証実験への展開など想定以上の展開が進んだ。
- 妥当である。

### (3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

#### (総論)

1年間のプロジェクトであったにもかかわらず、複数の大規模施設での実証や、長期動作デバイスモジュールの開発など、技術開発の目標を達成する成果を挙げている。

#### (コメント)

- 1年間のプロジェクトであったにもかかわらず複数の大規模施設での実証や長期動作デバイスモジュールの開発などの成果を挙げている。
- 技術開発、製品化の目標達成できている。
- 目標は達成されている。

### (4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 4

#### (総論)

省庁間連携がよくなされており、農業のフィールドの知見を色々と取り入れた開発が進んだ。単年度のプロジェクトであったことも踏まえ、今後の活動に期待する。

#### (コメント)

- 単年度のプロジェクトであったので論文発表等の実績がそれほどないが、今後の活動においては、他の作物に横展開できる技術や、農業従事者に負担のかからない技術等について、その意義を明らかにするような発表に取り組むことを期待する。

- 農業のフィールドの知見をいろいろ入れた開発が進んだ。
- 本研究計画において産学官連携が目標として掲げられているとおり、連携がよくなされている。

## (5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価 3

### (総論)

次に繋がる計画、事業化の道筋がある。その際、FIWARE との連携、差別化を明確にして事業化を進める必要がある。また、クラウドとの連携を更に進めるべきである。単年度のプロジェクトであったことも踏まえ、今後の活動に期待する。

### (コメント)

- 単年度のプロジェクトであったので実績がそれほどないが今後の活動に期待する。
- FIWARE との連携、差別化を明確にして事業化を進める必要がある。クラウドとの連携をさらに進めるべき。
- 次につながる計画、事業化の道筋がある。